

2) 有機農業に関するアンケート

県では、平成 20 年度から 22 年度にかけて、地域特産品の展示・即売や製造実演などを行う「えひめ産業文化まつり」の会場において、一般消費者における有機農業についての理解や関心、イメージなどを把握するために、有機農業に関するアンケートを実施している。このアンケートは、3 力年のいずれも会場内の不特定の来場者に声をかけて協力をお願いしたものである。回答して頂いた皆様には心から感謝を申し上げます。

各年度のアンケートの内容は、平成 20 年度は有機農業や有機農業によって生産された農産物の認知度やイメージの把握、21 年度は有機 JAS 制度に関する認知度等の把握、22 年度は有機農業や有機農業で生産された農産物に対する理解度を確認することを主旨としており、ここではその結果を紹介する。また、中でも 20 年度は回答者数が多かったため、やや詳細な検討を行っている。

なお、当アンケートの実施にあたっては、3 力年にわたり愛媛有機農産生活協同組合の職員の皆様および関係者の皆様から多大な支援をいただきました。心から感謝を申し上げます。

平成 20 年度の集計結果（11 月 22,23 日実施 回答者数 300 名）

Q1 性別

	全体	10～20代	30～50代	60代以上
男性	26.3%	20.5%	26.6%	28.0%
女性	73.7%	79.5%	73.4%	72.0%

Q2 年代（構成比）

	全体	男性	女性		全体	男性	女性
10代	2.0%	2.5%	1.8%	50代	19.0%	11.4%	21.7%
20代	11.0%	7.6%	12.2%	60代	20.7%	16.5%	22.2%
30代	16.3%	16.5%	16.3%	70代以上	18.7%	25.3%	16.3%
40代	12.3%	20.3%	9.5%				

Q3 あなたは有機農業を知っていますか。

	全体	男性	女性	10～20代	30～50代	60代以上
1.よく知っている	37.7%	34.2%	38.9%	12.8%	30.1%	55.1%
2.知っている	43.7%	48.1%	42.1%	51.3%	45.5%	39.0%
3.聞いたことはある	17.0%	16.5%	17.2%	30.8%	23.1%	5.1%
4.知らない	1.7%	1.3%	1.8%	5.1%	1.4%	0.8%

「よく知っている」と「知っている」の割合は、全体で 81.4% を占める。
60 代以上で、「よく知っている」の割合が高い（55.1%）。

Q 4 あなたは有機農業で生産された農産物を購入したことがありますか。

	全体	男性	女性	10～20代	30～50代	60代以上
1. よく購入している	27.0%	21.5%	29.0%	12.8%	19.6%	40.7%
2. 購入したことがある	62.3%	60.8%	62.9%	66.7%	67.1%	55.1%
3. 購入したことはない	10.7%	17.7%	8.1%	20.5%	13.3%	4.2%

「よく購入している」と「購入したことがある」の割合は、全体で 89.3% を占める。

60代以上で、「よく購入している」の割合が高い(40.7%)。

Q 5 購入された方はどこで購入されましたか。(購入人数の内数：複数回答)

	全体	男性	女性	10～20代	30～50代	60代以上
1. スーパー	39.2%	40.0%	38.9%	38.7%	35.5%	43.4%
2. 生協	48.9%	32.3%	54.2%	48.4%	52.4%	45.1%
3. 産直	35.8%	30.8%	37.4%	38.7%	37.1%	33.6%
4. インターネット	1.5%	3.1%	1.0%	0.0%	3.2%	0.0%
5. 生産者から直接	11.9%	18.5%	9.9%	6.5%	11.3%	14.2%
6. 百貨店	8.6%	3.1%	10.3%	9.7%	6.5%	10.6%
7. その他	1.5%	1.5%	1.5%	3.2%	2.4%	0.0%

「生協」から購入するケースが全体で 48.9% と最も多く、「産直」や「生産者から直接」での購入と併せると 96.6% であったが、「スーパー」や「百貨店」で購入する割合は併せて 47.8% であった。

Q 6 あなたは今後、有機農業で生産された農産物の購入を希望されますか。

	全体	男性	女性	10～20代	30～50代	60代以上
1. 購入したい	39.3%	32.9%	41.6%	25.6%	32.9%	51.7%
2. できれば購入したい	51.3%	60.8%	48.0%	56.4%	55.2%	44.9%
3. 購入したくない	0.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
4. 分からない	9.0%	5.1%	10.4%	17.9%	11.2%	3.4%

「購入したい」と「できれば購入したい」の割合は、全体で 90.6% を占め、「購入したくない」の割合は極めて少ない(全体で 0.3%)。

「購入したい」の割合は、男性よりも女性で高く(41.6%)、年代別では 60代以上で最も高い(51.7%)。

Q 7 あなたが有機農業で生産された農産物を購入する場合、どのように販売先の情報を入手されますか。(複数回答)

	全体	男性	女性	10～20代	30～50代	60代以上
1. 知人からの口コミ	37.3%	31.6%	39.4%	30.8%	33.6%	44.1%
2. インターネット	13.0%	22.8%	9.5%	12.8%	20.3%	4.2%
3. 生協	44.3%	30.4%	49.3%	41.0%	45.5%	44.1%
4. 新聞・雑誌	18.3%	21.5%	17.2%	10.3%	15.4%	24.6%
5. 一般店舗	29.0%	24.1%	30.8%	30.8%	33.6%	22.9%
6. その他	1.7%	1.3%	1.8%	0.0%	0.7%	3.4%

全体で「生協」から情報を入手するケースが最も多く(44.3%)、ついで「知人から

の口コミ」が多い(37.3%)。また、「知人からの口コミ」と「新聞・雑誌」は、年代が上がるほど多い傾向であった。

Q 8 あなたは有機農業で生産された農産物を購入する場合、一般の農産物と比較して、どのくらい値段が高くてよいですか。

	全体	男性	女性	10～20代	30～50代	60代以上
1. 同価格まで	15.3%	12.7%	16.3%	2.6%	9.1%	27.1%
2. 1～2割高	76.3%	82.3%	74.2%	89.7%	79.7%	67.8%
3. 3～4割高	6.0%	5.1%	6.3%	2.6%	9.8%	2.5%
4. 5割高以上	1.7%	0.0%	2.3%	5.1%	0.7%	1.7%
5. その他・無回答	0.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	0.8%

全体で76.3%が「1～2割高」と回答している。また、60代以上で「同価格まで」の割合が比較的高い(27.1%)。

Q 9 あなたは有機農業で生産された農産物にどのようなイメージをお持ちですか。

(複数回答)

	全体	男性	女性	10～20代	30～50代	60代以上
1. 環境に配慮して生産された農産物である	51.0%	50.6%	51.1%	46.2%	54.5%	48.3%
2. 安全性の高い農産物である	84.3%	81.0%	85.5%	84.6%	86.7%	81.4%
3. 生産者の顔が見える農産物である	50.3%	38.0%	54.8%	41.0%	49.0%	55.1%
4. 美味しい農産物である	45.0%	40.5%	46.6%	59.0%	44.8%	40.7%
5. 美味しくない農産物である	0.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
6. 価格が高い農産物である	18.0%	11.4%	20.4%	23.1%	20.3%	13.6%
7. 価格が低い農産物である	3.0%	3.8%	2.7%	0.0%	1.4%	5.9%
8. 見た目が悪い農産物である	12.7%	11.4%	13.1%	10.3%	9.8%	16.9%
9. 栄養価の高い農産物である	21.3%	10.1%	25.3%	10.3%	21.7%	24.6%
10. 健康によい農産物である	59.0%	54.4%	60.6%	51.3%	53.8%	67.8%
11. 新鮮な農産物である	40.7%	22.8%	47.1%	46.2%	36.4%	44.1%
12. 手に入りにくい農産物である	13.0%	10.1%	14.0%	15.4%	12.6%	12.7%
13. 分からない	1.3%	0.0%	1.8%	5.1%	0.7%	0.8%

全体で、「安全性が高い」が、84.3%と最も多く、ついで「健康によい」の59.0%で、以下、過半数に達したイメージは「環境に配慮して生産された」が51.0%、「生産者の顔が見える」が50.3%であった。

「生産者の顔が見える」と「健康によい」は、60代以上で多い傾向があった。全体で「見た目が悪い」(12.7%)とのイメージは少なかった。

主な傾向

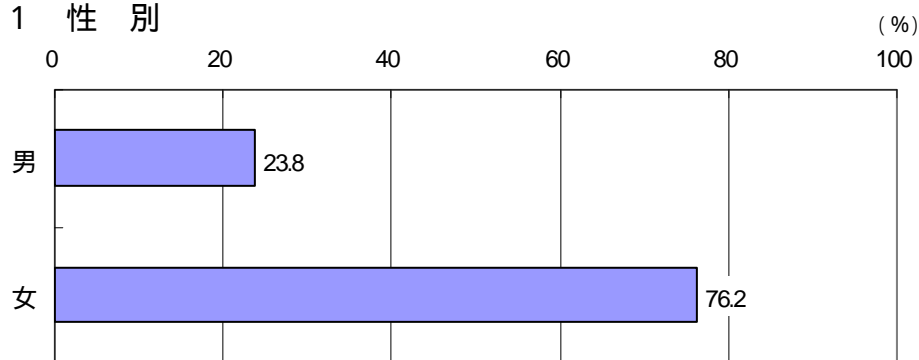
有機農業を「よく知っている」や「知っている」とする割合は、全体で81.4%を占め、有機農業に対する関心は高いとみられるが、「環境に配慮して生産された農産物」や「見た目が悪い農産物」よりも、「安全性の高い農産物」(84.3%)が有機農業の代表的なイメージとして定着しているとみられる。

有機農業で生産された農産物を「購入したい」や「できれば購入したい」とする割合は全体で90%以上になる。また、その購入先は「スーパー」や「百貨店」のような量販店だけではなく、「生協」・「産直」・「生産者から直接」と多様であり、販売先の情報は「生協」や「知人からの口コミ」で入手するケースが多い。一方、許容できる価格は一般の農産物と比較して「1～2割高」が最も多く、「同価格まで」と併せると90%以上となることから、一般の農産物よりも2割程度までなら、割高であっても購入対象として許容されるとみられる。

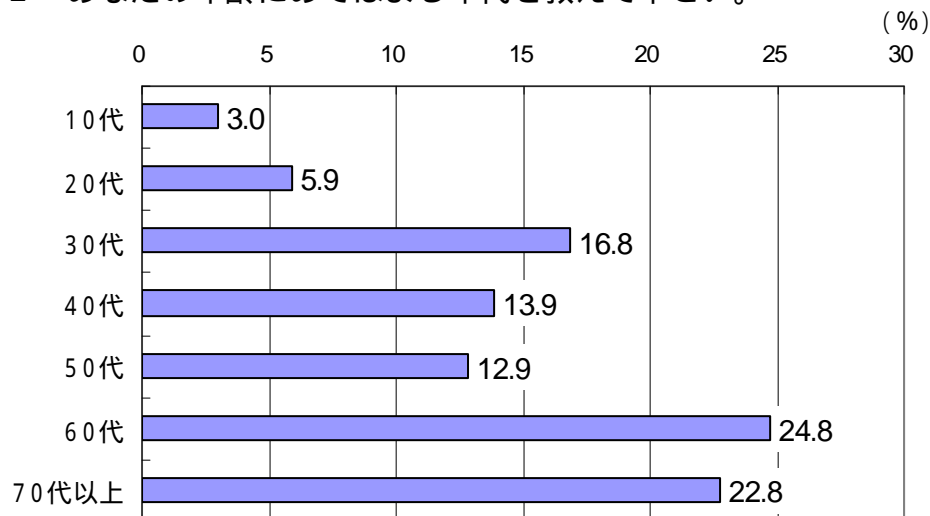
有機農業を「よく知っている」かつ「よく購入している」割合は60代以上で多く、この理由として、「安全性の高い農産物」の他、「健康によい農産物」とのイメージを他の年代よりも多く持っていることがあげられる。また、この年代では「生産者の顔が見える農産物である」ことも多くイメージされており、購入動機の一つとみられる。

平成21年度の集計結果(11月28,29日実施 回答者数101名)

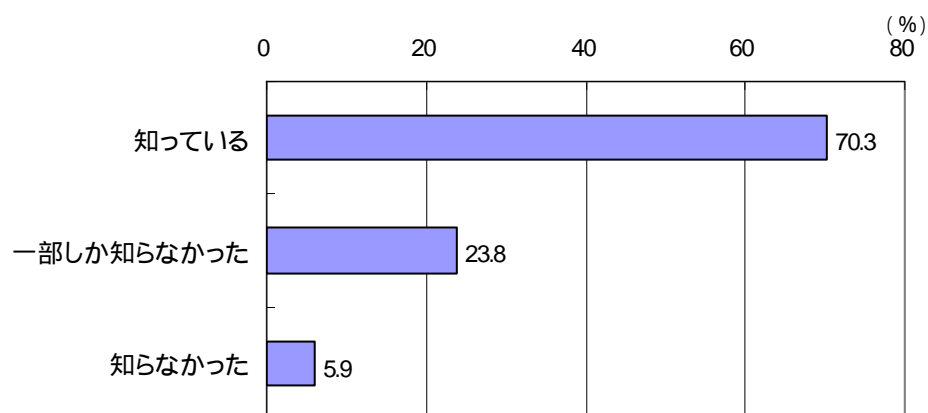
Q1 性別



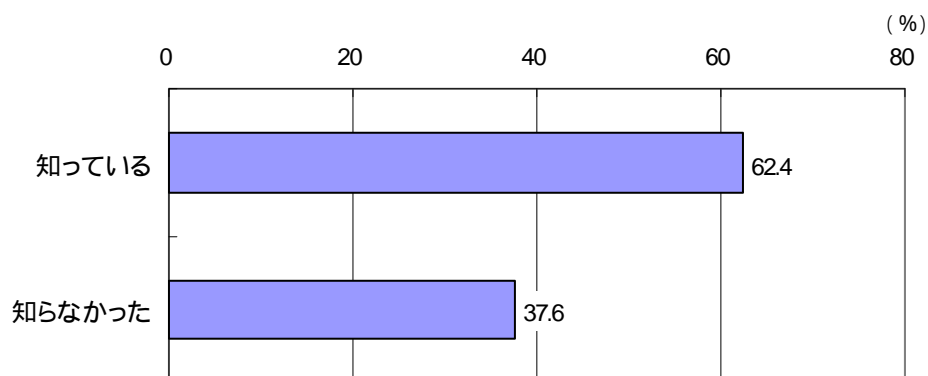
Q 2 あなたの年齢にあてはまる年代を教えてください。



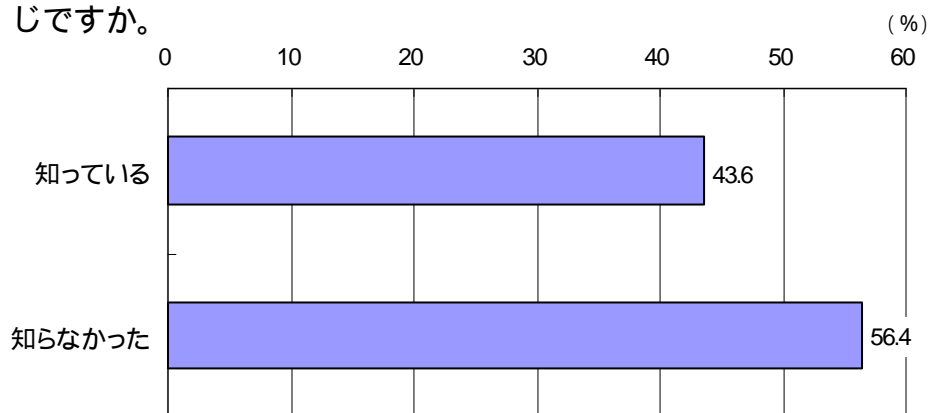
Q 3 あなたは有機農業が、化学的に合成された肥料・農薬を使用しないことを基本として、遺伝子組換え作物を用いない農業であることをご存じですか。



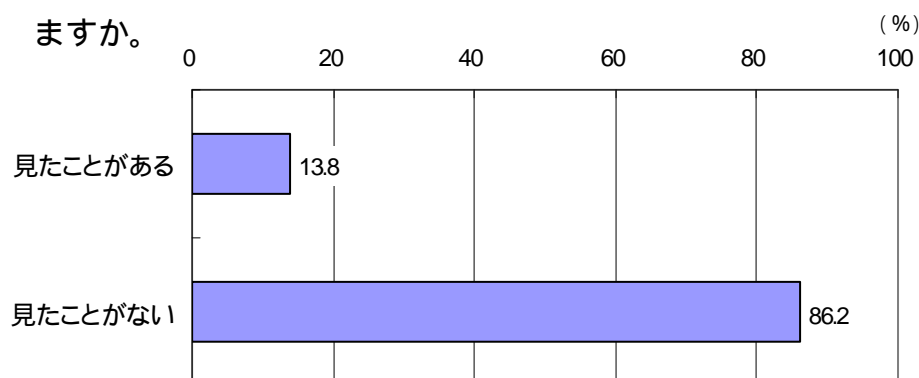
Q 4 あなたは、有機農産物やその加工品に、認証制度があるのをご存じですか。
(例：有機 JAS の認証を得なければ有機農産物と表示することができません。)



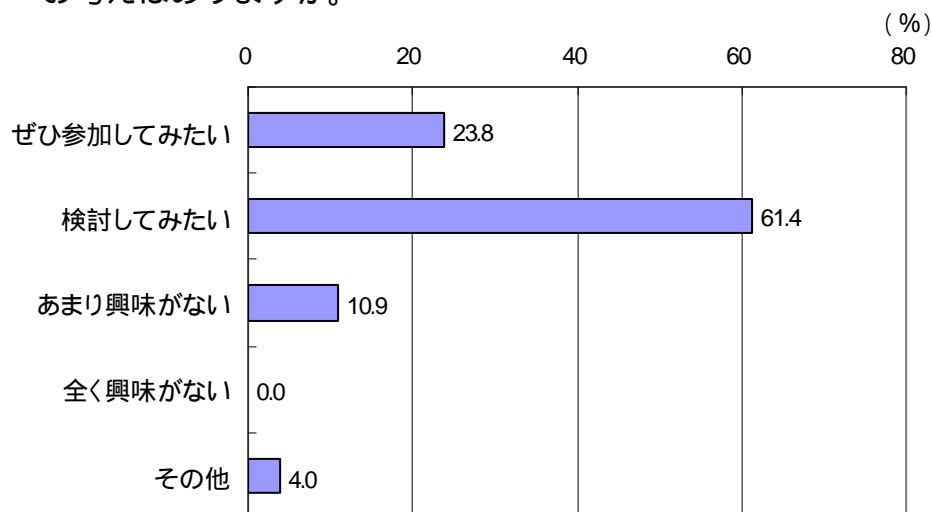
Q 5 あなたは、有機農業においても、使用が認められている農薬があることをご存じですか。



Q 6 あなたは、愛媛県の有機農業に関するホームページをご覧になったことがありますか。



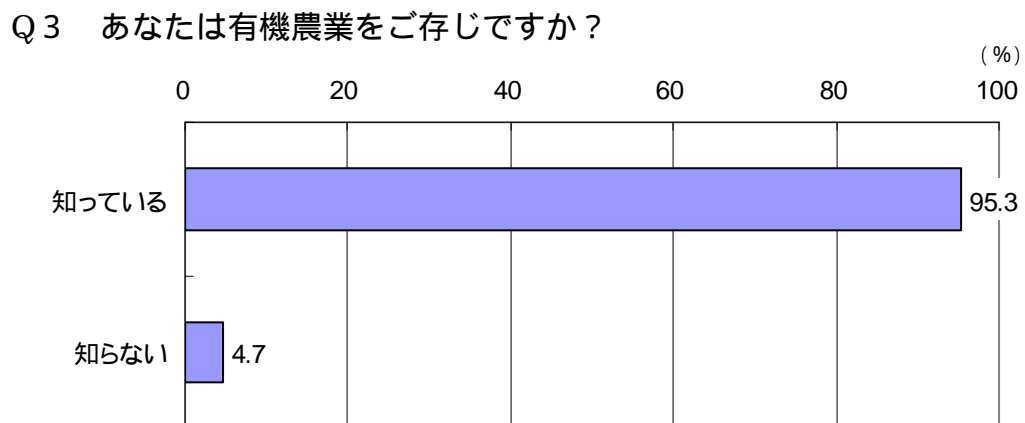
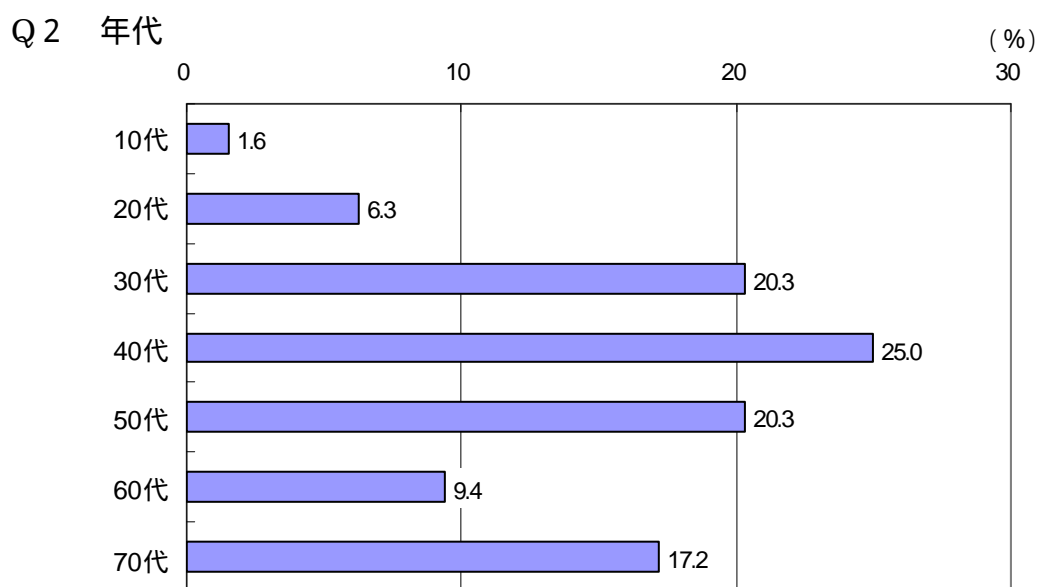
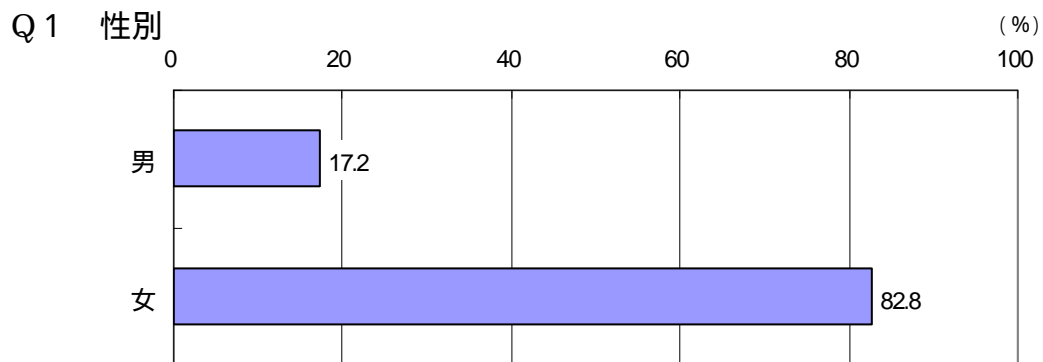
Q 7 愛媛県が、有機農業者を応援したり交流するような組織ができれば、参加するお考えはありますか。



(主な傾向)

Q3において有機農業を知っているとの回答は70.3%あったが、Q4で有機農業の認証制度について知っているとの回答は62.4%であり、Q5の有機農業において使用が認められている農薬があることを知っているとの回答は43.6%であった。これらのことから、有機農業についてJAS認証等を含めた認知度は高まっているものの、その内容に関する理解は十分ではないといえる。

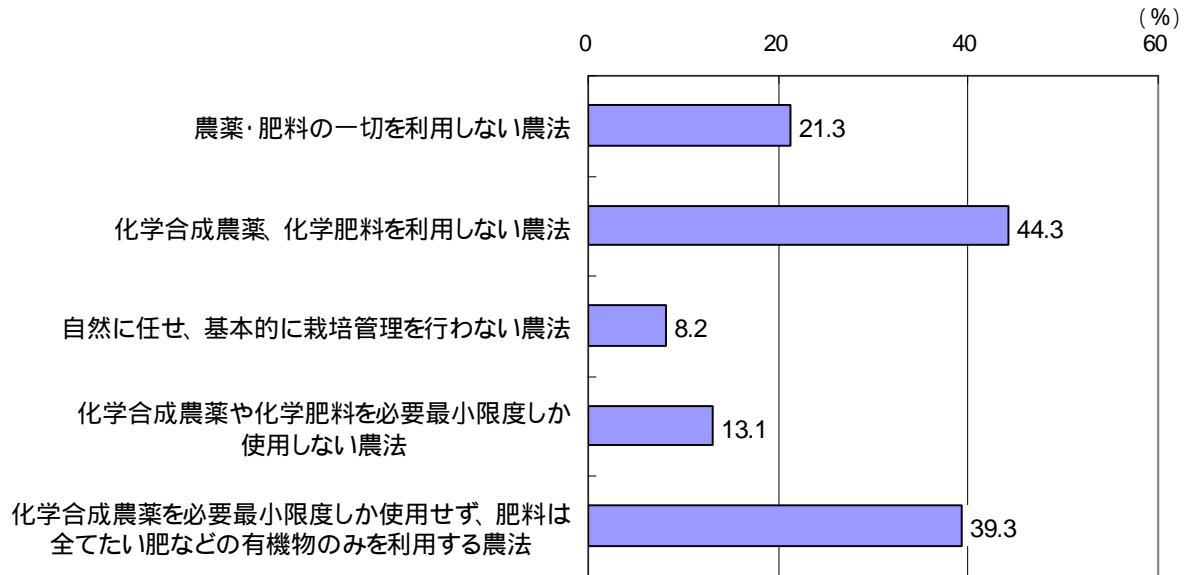
平成 22 年度集計結果（11 月 27,28 日実施 回答者数 64 名）



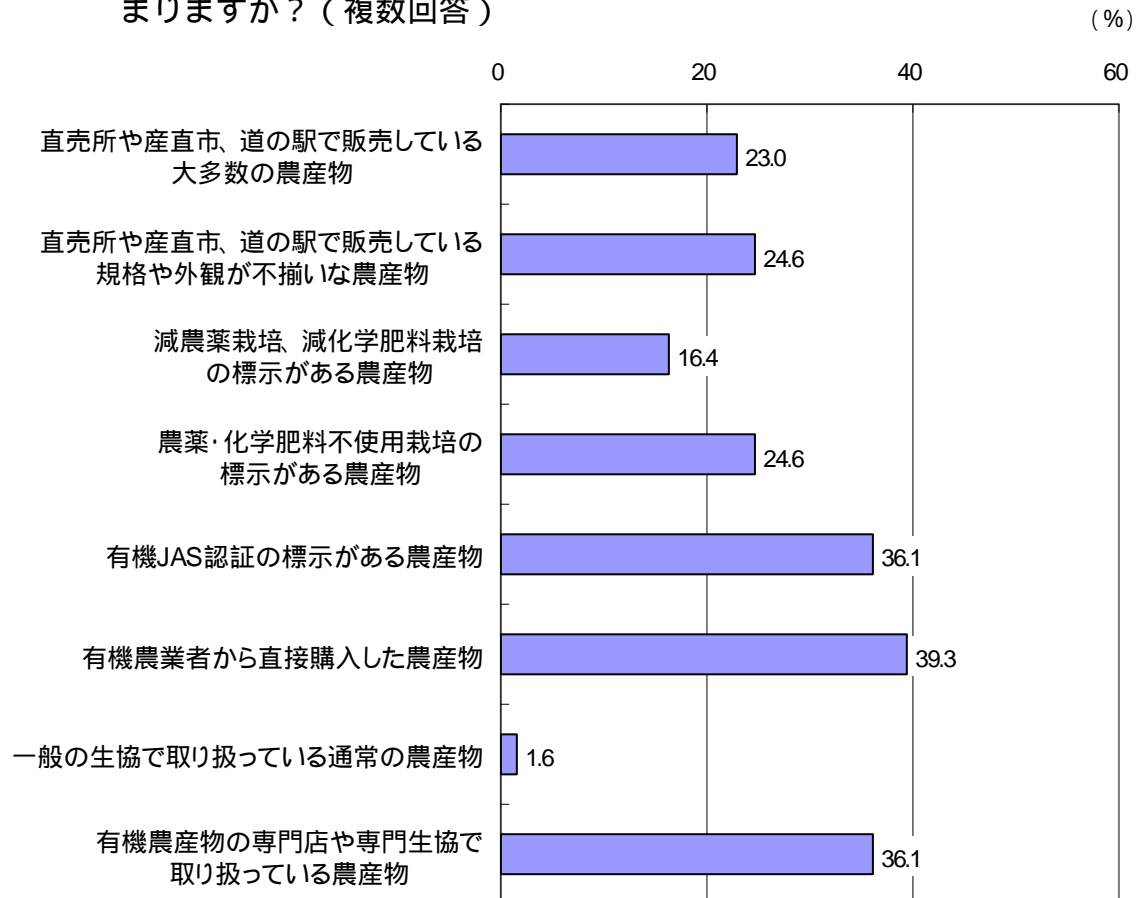
Q4 有機農業を知っていると答えた方に質問です（対象者 61 名）。

1) あなたが思う有機農業とは、以下のどれに当てはまりますか？

本質問は複数回答を想定していなかったが複数回答者が多かった。



2) あなたが思う有機農業によって生産された農産物とは、以下のどれに当てはまりますか？（複数回答）



(主な傾向)

有機農業を知っているとの回答が 95.3%であった。しかし Q 4 において「化学合成農薬、化学肥料を利用しない農法」の回答は 44.3%であり、「化学合成農薬を必要最小限度しか使用せず、肥料は全てたい肥などの有機物のみを利用する農法」の回答が 39.3%あった。

有機農業によって生産された農産物については、「有機農業者から直接購入した農産物」が 39.3%、「有機 JAS 認証の標示がある農産物」と「有機農産物の専門店や専門生協で取り扱っている農産物」が 36.1%と多かった。その一方で「直売所や産直市、道の駅で販売している規格や外観が不揃いな農産物」が 24.6%、「直売所や産直市、道の駅で販売している大多数の農産物」も 23.0%あった。

これらのことから、今回の調査では有機農業の内容や有機農業によって生産された農産物の入手方法について正しく理解している消費者が 40%程度に達すると考えられたが、有機という言葉の印象に引きずられたり、産直市や道の駅等で売られている規格が不揃いでかつ新鮮な農産物を有機農業によるものとみなしたりする等、有機農業について正確な情報を得ていない消費者も多いと考えられた。

まとめ

この3カ年のアンケートでは、いずれの調査においても有機農業やその認証制度について知っているとの回答が多く、一般の消費者にとって、有機農業という言葉やその認証制度の存在についての認知度は高いと考えられた。しかし、有機農業やその認証に関する具体的な中身や、有機農業によって生産された農産物の特徴や入手方法等については、十分な理解が得られているとはいえない難かった。

これらのことから、ホームページや各イベントを活用して、今後も継続して有機農業に関する正確で分かりやすい情報を消費者に提供し、その理解や関心を高めることで有機農業の普及・推進に繋げていく必要がある。